

妙高地区深雪ツアー報告

【日程と場所】2016年1月9日～11日

9日：赤観リゾートスキー場・旧ゲレンデ（チャンピオン）

10日：関温泉スキー場・旧ゲレンデ

11日：シャルマン火打スキー場

【メンバー】CL 菊池・住田・鶴田・石井・加藤・吉川・庭田・薄井・会員外2名



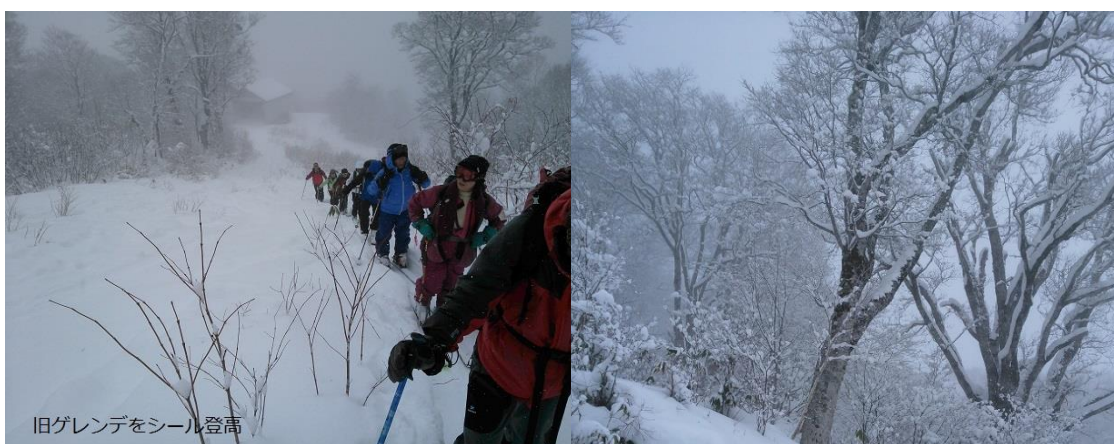
関温泉スキー場から野尻湖方面

・例年はこの時期には妙高地区のスキー場をベースにした妙高：前山・赤倉山、黒姫山、鍋倉山などの深雪ツアーを楽しむに十分な積雪量があるが、今期は例年の半分以下の積雪のため林間への入山は困難である。赤観リゾートスキー場で90cm、関温泉スキー場で120cmの積雪、池の平、杉ノ原は50～60cmであったが、1～2日前から期間中、冬型が続く予想でかなりの降雪量を期待した。実際には寒気はそれほど強くなく3日間で10～20cmの降雪が数回で積雪は20cm前後増加したに過ぎなかった。

ゲレンデマップとカシミールによる地図を検討し、旧ゲレンデなら藪も少なく何とかなる

であろうと考え、また前職場のご主人が赤観のパトロールのため、電話して直接情報収集できた。宿泊は最近、頻繁に利用している野尻湖畔の「ランプ」、快適なドミトリー、リーズナブルな料金に満足の宿である。

・9日は赤観(積雪 100 cm)のホテルコース最上部のリフトに乗り、いつもの入山地点(1500m)に偵察に行ったが、やはり藪が濃くまったくダメである。学生時代に競技スキー大会などで滑った懐かしいチャンピオンゲレンデのほうへ滑走し、リフトで 1250m のトップへ、その上部の現在使用されてなく、リフトも取り外された旧ゲレンデを覗いてみると、前日から当日にかけての、シュプールがかなりあるが、なんとかパウダーランが楽しめそう。新雪 20~30 cm のやや重いゲレンデを先行者のトレースを辿ってハイクアップした。標高 1450m (積雪 130 cm) から上部は斜度が急になり藪だらけそれ以上のハイクアップは無理であり、滑走開始とした。上部の前山へ続くクラシックルートは以前快適にハイクアップした経験があり、そのうちまたチャレンジしてみたい。



藪がやや煩い所もあるが、リフト下なども利用し、できるだけノートララインを選んだパウダーランである。今冬初めてといってよいパウダーランに皆さんのテンションはアップした。標高差 200m ほどの旧ゲ

レンデ、外国人のパーティなど数グループがパウダーランを求めてハイクアップしてくる。午前中の早い時間であれば、ノートラックを堪能できるであろう。下部を合計 2~3 本ピストンしてパウダーランは終了。その後は数本のゲレンデ滑走を楽しんだ。ホテルコースの上部は急な斜面ほど、ガリバーンや下草が露出している部分があるが、チャンピオンゲレンデは雪質がよく変化のある中斜面で豪快な滑走が楽しめた。予想以上の内容の濃い 1 日目を終了できほっとした。





フワフワパウダーラン



林間ならの藪間滑走



ブナの美林バックに余裕のちば山美人



Uさんの積極パウダーラン



もう1本でも2本でもハイクアップしよう



テンションあげて2本目ハイクアップ



2本目も気持ちよさそう



パウダーテレポート

・10日は関温泉スキー場（積雪130cm）へ向かった。前夜からの降雪はなく好天で妙高山



雲海をバックに



朝の妙高山

の素晴らしい景色を堪能できた。

さすがに、日本一の豪雪地帯、例年ならずすでに 3m ほどにはなっている積雪であるが今期は半分以下、それでも赤倉地区に比べ、道路脇のグンと増えた積雪に期待感を抱いてゲレンデに向かった。このスキー場は学生時代、競技スキーを始めたばかりで合宿を行ったり、数回来たが、当時と比べゲレンデが拡大され、最近では深雪滑走を求めているの方が多いようである。休暇村から藤巻尾根へのパウダーツアーは快適であるが、今期はまだまだ無理である。ゲレンデはコンパクトではあるが雪質がよく変化に富んだ快適斜面である。一本滑走してからスキー場の南に位置する旧ゲレンデに向かった。シール登高で標高 950m から 1180m へハイクアップした。積雪が十分の時にはスキー場のトップから林間経路で滑ってくることもできるとのことである。2 人連れの先行グループが 2 組あった。藪がやや煩いが東～東北東向きの斜面のため、フワフワパウダーランを楽しめた。



関温泉スキー場の不整地急斜面



旧ゲレンデをハイクアップ



スキー場トップから神奈山に続く尾根



ふわふわパウダーの好感触



気持ちよさそうに滑るNさん



山スキー女子2人、この写真最高！

食堂で休憩後変化のあるゲレンデで数本練習した。



練習を繰り返した変化ある好斜面

小生はテレターンを少しチェックしながら緩斜面で練習、筋肉疲労のため、踏ん張りが効きにくく、外エッジに乗ってしまい、2日間で初めての転倒、そこへ住田さんが滑り降りてきて言葉を交わして、さあ滑ろうとしていたところへ、直上からボーダーが突っ込んできて、もんどりうって転倒、すごい衝撃。あっという間の出来事に一瞬呆然、さあ、体

は大丈夫かなと起き上がったが、ストックは折れ、後で左股関節周辺と右肩が少し痛んだ。打撲程度の障害であり、肩の痛みが翌日には少し増し、左股関節周辺が運動時にやや痛むが翌日も滑走、翌々日もランニングでき、運動制限はほとんどないようで、もう数日ですっかり回復するであろう。(後遺症はまず残らないでしょう。通院も必要ないと思います) 衝突してきたボーダーは始めたばかりのようで、運動具店(?)主催のキャンプに来ており、相談して保険でストックの弁償や、今後、通院が必要な時に対応するという事にした。

コンパクトではあるが、緩急変化のある雪質の良いスキー場にメンバーは大満足、鉄分を含む登美屋の温泉で汗を流した。

・11日は前日帰葉したメンバーを除き5名で積雪が最も多いシャルマン火打に向かった。前日は雨が降ったとのことであるが、前夜からの降雪が20~30cm、非圧雪ゲレンデで深雪滑走を目論んできたが、時間が遅く既にギタギタの不整地、大腿のかなり負担のかかる状

態であり、圧雪快適斜面を視界不良の中数本練習して昼過ぎに今回の3日間は終了した。

帰路新井SAの日本海鮮魚センターにて買い物をして帰葉した。



・何とか深雪ツアーの入り口くらいしか実施できませんでしたが、ゲレンデ練習をしっかりとできた分、メンバーの滑りは安定してきたようです。